

第2次八代市総合計画第1期基本計画

(平成30年度～令和3年度)

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出	
取組①	大型クルーズ客船入港に伴うインバウンド需要を取り込む環境整備
取組②	「八代民俗伝統芸能伝承館（仮称）」の整備と活用
取組③	若者の地元定着と地元企業を支援する「ツナガルインターンシップ事業」を実施
取組④	市内全域の超高速ブロードバンド化による企業誘致環境の整備
取組⑤	新庁舎を核とした中心市街地のまちづくりを促進
取組⑥	国際スポーツ大会などや合宿などの誘致
取組⑦	球磨川流域の魅力づくりの推進

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	① 大型クルーズ客船入港に伴うインバウンド需要を取り込む環境整備
重点戦略	観光消費額の増加を図るため、大型クルーズ客船入港に伴うインバウンド需要を取り込む環境整備を進めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
経済文化交流部	・ 海外クルーズ船の寄港増に伴い、平成28年度より多言語の案内看板やWi-Fiの設置等、インバウンド受け入れ環境の整備に取り組んできた。 ・ しかし、令和元年度末から世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により令和2・3年度は海外クルーズ船の寄港がなくなり、インバウンド需要がほぼなくなった。 ・ 今後、海外クルーズ船の寄港も徐々に再開されると見込まれているが、現段階で見通しは立っていない。 ・ これまでの海外クルーズ船の誘致を核とした戦略を見直すとともに、国内観光客需要を取り込む戦略と併行した取り組みの更なる強化が必要となっている。 ・ また、本市と氷川町、芦北町で取り組んでいるシトラスブランディング事業においても、プロモーションの対象等を国内船に広げる必要がある。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
インバウンドの推進		－			
指標名		H30	R1	R2	R3
外国人観光客の受入体制が整っていると感じる割合（％）	計画値	18.3	25.5	32.7	40.0
	実績値	12.4	11.2	14.9	14.7
クルーズ船などにより観光や買物などを目的に市内へ来訪した外国人数（人）	計画値	199,000	268,500	336,000	402,000
	実績値	96,037	61,192	807	2,006

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	② 「八代民俗伝統芸能伝承館（仮称）」の整備と活用
重点戦略	市内各地域の伝統文化財の保存継承と情報発信による持続可能な地域づくりを目指した「八代民俗伝統芸能伝承館（仮称）」の整備を進めるとともに、インバウンドを含む地域間交流の取組を進めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
経済文化交流部	- 令和3年度までに施設整備を完了し、管理運営を行っている。 - 整備事業のうち展示物制作（お祭り体感シアターで上映する妙見祭映像）については、コロナ禍により妙見祭が令和2年、3年と2年続けて中止となり当日の撮影が行えなかったため、従来から保有している映像等を再編集し暫定的に使用することとした。同映像の制作は令和4年度に改めて行う予定である。 - 施設整備は上記の一部の展示物制作業務を除き計画に沿って完了した。 - 高齢化による担い手不足やコロナ禍による活動中止等により継承が難しくなっている民俗芸能も多い。今後はこれらの課題解決のため各保存団体の組織強化や公開機会の確保などの支援を行う必要がある。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②				
文化施設の整備・充実		－				
指標名		H30	R1	R2	R3	
芸術・文化に触れ、親しむことができる文化施設が整っていると感じる割合（％）	計画値	22.2	23.7	25.2	26.8	
	実績値	21.2	21.3	22.4	25.6	

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	③ 若者の地元定着と地元企業を支援する「ツナガルインターンシップ事業」を実施
重点戦略	雇用促進を図るため、「八代圏域雇用促進センター」を中心に、若者の地元定着と地元企業を支援する「ツナガルインターンシップ事業」を実施し、八代圏域の学生の地元就職へつなげます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
経済文化交流部	・本市では人口減少問題に加え、生産年齢人口の減少が喫緊の課題となっている中で、若者の市外流出に歯止めをかけるとともに、地元定着を大きな柱として、インターンシップを中心とした企業と学生の関係構築に取り組んできた。 ・市内教育機関と企業とのインターンシップをマッチングする件数については、目標を超える件数となり、八代圏域雇用促進センターが核となり、大きな役割を果たした。 ・しかしながら、学生の地元就職をはかる”若者の地元定着率”も目標の達成にはならなかったが、増加に転じており、地元就職につながったものと考えている。 ・今後は新たなに地域企業の魅力向上に注力し、若者の地元就労に繋げていく。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
地域での雇用・就労の促進		－			
指標名		H30	R1	R2	R3
市内で働くにあたり、自分が求める職種や企業があると感じる割合（％）	計画値	14.9	16.6	18.3	20.0
	実績値	15.4	15.6	9.9	12.4
就職率（％）	計画値	48.5	49.0	49.5	50.0
	実績値	49.9	44.4	41.5	40.7

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	④ 市内全域の超高速ブロードバンド化による企業誘致環境の整備
重点戦略	企業誘致環境の充実を図るため、市内全域の超高速ブロードバンド化を進めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	・本事業は、企業誘致環境の充実に向け、光ブロードバンド未整備地区を解消するため、令和元年度から令和4年度までの4か年事業として実施してきた。 ・令和2年2月に龍峯地区、令和2年11月末に日奈久・二見・鏡沿岸部、令和3年6月に東陽、泉地区でのサービスを開始しており、概ね計画どおり進捗している。 ・事業最終年度となる令和4年度は坂本地区を整備予定であり、整備事業者とより一層連携しながら事業を推進していく。 ・今後は、整備環境を活かして、誰もがメリットを感じられるデジタル化の推進と、地域課題の解決を図る。
経済文化交流部	・情報通信関連企業の誘致実績は、平成30年度は実績がなかったものの令和元年度4件、令和2年度4件と順調に推移、令和3年度も、情報通信関連等企業の誘致が4件実現した。 ・今後もITスキル人材の育成を含め、今後も旧宮地東小学校のサテライトオフィス改修を進め、引き続きIT関連企業の集積を図っていく。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
超高速通信網などの整備促進		企業誘致の推進			
指標名		H30	R1	R2	R3
インターネットがストレスなく利用できる環境にあると感じる割合（％）	計画値	24.0	24.0	36.5	44.0
	実績値	27.3	39.7	44.7	44.0
市の地域経済において、工業に活気があると感じる割合（％）	計画値	18.1	20.4	22.7	25.0
	実績値	18.2	16.4	18.0	20.0
超高速通信網の整備率（％）	計画値	86.5	86.5	93.8	100.0
	実績値	86.5	88.0	94.7	97.6
企業誘致による雇用者数(人) ※累計	計画値	15	130	145	160
	実績値	91	79	114	149

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	⑤ 新庁舎を核とした中心市街地のまちづくりを促進
重点戦略	中心市街地をにぎわいのあるまちとするため、新庁舎を核とした中心市街地のまちづくりの促進に努めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
経済文化交流部	・商店街の活性化については、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、来街者が減少する中、商店街振興組合等で実施するイベントや空き店舗解消への支援を行い、賑わいを創出することができた。また、本町1丁目にコワーキングスペース「SUNABACO八代」がオープンし、プログラミングスクールなど今まで商店街を訪れていなかったような方々も商店街を訪れるようになり、中心市街地の賑わいに寄与することができた。 ・周辺の歴史文化遺産の活用については、八代城跡北の丸堀跡の確認調査を令和元年度に実施し計画策定に必要なデータを得たうえで、昭和35年以前の八代城跡の古写真の提供を市民に呼び掛けた。厚生会館については、令和2年度末に施設の今後の方針を策定し、ホール機能の停止及び建物の新たな利活用について検討を進めた。 ・今後はインバウンドの再開に向け、中心市街地にある文化施設と商店街を回遊できる取り組みに向けて検討していくとともに、令和4年に八代城築城400年を迎えることから、市民を巻き込んだ記念事業の実施に向けて準備を進める必要がある。厚生会館についても、民間提案の結果などを踏まえ、ファシリティマネジメントの観点から総合的に検討を進める必要がある。
建設部	・令和2年度景観計画を策定し、令和3年度公共事業等景観形成指針を作成した。 ・令和3年度から景観フォトコンテストや景観セミナーを開催し、市民の景観への意識向上に取り組んだ。 ・市全域における一定規模以上の景観形成行為の届出に対して、景観形成ガイドラインを活用した技術的支援（デザイン等の指導）を行ってきた。 ・こいこい通りや新庁舎南側市道の改良工事について、新庁舎と景観の統一感を図るとともに、電柱移設による修景への配慮など調整を行ってきた。 ・今後、新庁舎西側の市道改良工事が予定されているため、公共事業等景観形成指針に基づき調整を行う。 ・また、市民の景観意識の向上を図るため、景観フォトコンテスト、景観セミナー及びくまもと景観賞への応募等を実施するとともに、4地区ある景観重点地区候補のうち、妙見宮周辺地区、日奈久温泉街地区については、地域住民との合意形成を図り、早期の景観重点地区指定を目指す。残る八代城跡・市役所周辺地区、本町アーケード街地区については、その後の景観重点地区指定に向け準備を行う。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
良好な景観の形成		中心市街地の活性化			
指標名		H30	R1	R2	R3
普段の生活のなかで、自慢できる景観があると感じる割合（％）	計画値	－	59.0	60.0	66.0
	実績値	－	－	32.6	34.2
中心市街地が賑わっていると感じる割合（％）	計画値	6.0	7.5	9.5	10.0
	実績値	4.5	4.1	5.1	8.5
中心市街地（本町1～3, 通町）の通行量（人）	計画値	7,600	7,700	7,900	8,000
	実績値	6,756	8,524	8,897	8,201

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	⑥ 国際スポーツ大会などや合宿などの誘致
重点戦略	スポーツの振興や交流人口の拡大を図り、本市のにぎわいの創出を図るため、国際スポーツ大会や合宿などの誘致を進めます。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
経済文化交流部	- 令和元年に本市で開催された2019女子ハンドボール世界選手権は5日間10試合で約20,000人が観戦され、全国高等学校総合体育大会（バドミントン競技・アーチェリー競技）では約23,500人の方が観戦された。また、経済波及効果にあってはハンドボールが8億5300万円、高校総体では7億9500万円が経済関連表を用いて推計された。 - スポーツによる交流人口の拡大と地域活性化を加速するため、令和3年度に官民一体型の八代市スポーツコミッションを設立。 - そのような中、令和3年度はSPORTECの出展、ガイドブックのDM送付、旅行代理店などへの八代市スポーツコミッションを核とした営業活動により、スポーツ大会14件、スポーツ合宿35件の誘致に成功した。 - スポーツ大会・合宿などの誘致は目標値の64件に対し、令和3年度末では95件を達成。 - スポーツ大会・合宿等は全国の自治体において誘致合戦になっており、合宿等を行う団体が合宿地を選ぶ際の材料（合宿補助金・施設整備）拡充の検討も必要。 - 今後も引き続き、八代市スポーツコミッションを中心に、西日本大学女子ソフトボール大会、九州小学生PGAバドミントン大会、プロスポーツ大会など、新規のスポーツ大会や合宿の誘致に取り組んでいく。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
競技スポーツの推進		—			
指標名		H30	R1	R2	R3
全国規模のスポーツ大会が開催されるなど競技スポーツが盛んであると感じる割合（％）	計画値	22.5	25.0	27.5	30.0
	実績値	36.5	36.1	29.6	30.3
全国規模のスポーツ大会などの開催・誘致件数（件） ※累計	計画値	21	36	50	64
	実績値	21	39	46	95

第2次八代市総合計画第1期基本計画（平成30年度～令和3年度）

重点戦略に係る取組内容等総括表

重点戦略	2 経済の浮揚と雇用・交流人口増によるにぎわいの創出
重点戦略	⑦ 球磨川流域の魅力づくりの推進
重点戦略	球磨川下流域の水辺環境を生かした身近な憩いの場づくりとして、遙拝八の字広場の整備や荒瀬ダム撤去後の周辺整備、また、遊歩道整備によるウォーキングやサイクリングでの回遊性、連続性を高めるなど、交流人口増によるにぎわいの創出を図ります。

担 当 部	重点取組の4年間の総括及び今後の展望
総務企画部	・新萩原橋周辺地区及び坂本地区のかわまちづくり実行委員会を開催し、住民の意見等を反映させ、整備を推進した。 ・遙拝八の字広場のトイレ・水飲み場・倉庫が完成し、芝生広場と駐車場等の整備も進んでおり、令和4年8月20日には完成記念式典が開催された。 ・荒瀬ダムボートハウス跡地の駐車場整備が令和3年12月に完了した。 ・令和2年5月に共用開始された「かわの家」については、令和2年7月豪雨により被災し、復旧に向けて国との協議を進めている。 ・当初計画した施設等については概ね整備が完了。 ・今後の施設管理や利活用については、経済文化交流部において実施される。 ・また、遊歩道整備については、球磨川河川緑地内道路や、河川緑地～植柳橋区間の球磨川左岸遊歩道は整備済だが、植柳橋～金剛橋区間は豪雨災害からの復旧・復興が優先されていることから、今後、状況を見ながら整備を図っていく。
経済文化交流部	・かわまちづくり推進事業における「トイレ新築工事」「張芝工事」等、災害に強く、維持管理経費も含めた復旧・復興の検討し令和4年度上半期に竣工。 ・荒瀬ダム撤去対策事業においては、令和3年4月、ボートハウスの解体工事を竣工し、令和3年12月に駐車場整備舗装工事を竣工した。 ・今後は、国、県、地域住民との協議を進め、道の駅坂本周辺施設等における復旧・復興の更なる推進を図る。

■ 第1期基本計画で位置付けられた施策とその成果指標

施策名①		施策名②			
地域資源の活用と観光コンテンツの開発		－			
指標名		H30	R1	R2	R3
球磨川周辺（坂本町～新萩原橋方面）において観光できる場所や各種イベントなどが充実してきていると感じる割合（％）	計画値	－	－	21.4	23.0
	実績値	－	－	12.9	14.2
観光入込客数(人)	計画値	－	－	2,684,812	2,844,812
	実績値	－	－	1,542,504	1,623,511